

エリック シュロ デイ 、元カトリック教徒、米国 (2/2)

5.0

明:

元ラップスタ 、エヴァ ラストがいかにしてイスラ ムと出会ったかについてのインタビュー 。第二部。

目: [事新改宗者ムスリムの逸 男性](#)

より: アディサ バンジャコ (インタビュー)

日 07 Mar 2011

集日 07 Mar 2011

AB: 私の家族はそのように みました。そんなことは理解出来ないことですよね。私は改名して8年 ちましたが、彼らは未だに私を元の名前で呼びます。そして「ああ、ムスリムに改宗したんだったね。」と言うんです。それと豚 の冗 も言ってきますね。それらは止むことがありません。

E: 人というのは理解の出来ないことに して笑うものだからね。または未知のものを怖れたりもする。でもイスラ ムを理解出来ないふりをするには にも出来ない。なぜなら俺は人生の中で、これ以上にシンプルなものに出くわしたことがないからね。

俺はある 、腰をおろしてこう いた があるよ。「じゃあ、ムスリムは何を信じているんだ?」そして俺はその一 を示された。俺は言ったよ。「キリスト教とユダヤ教の に障壁を立てないのかい?」彼らは言った。「いいや、同じ仲 だよ。」

クルア ン、バイブル、そして旧 であるト ラ を む段 にまでたどり着けば、クルア ンがそれら (バイブル、ト ラ) の真 を し、 いを正すものであることが分かるはずだよ。多分こう思うんじゃないかな? 「彼らが世界の なる地域にいながらにして、こんなことが起こり得るだろうか?」でも、それらはすべてお互いの物 を しているんだよ。

今、カレン アムストロングによる「ムハンマド： 言者の人生」という本を呼んでいる。非ムスリムによる著作だ。今のところ4分の1程を みえたけど、そこでは序 から、いかにムハンマドが によってイスラ ムを めただけの、この世で最も邪 な人物として描かれてきたかが述べられている。でも にはムハンマドは、やむを得ない状 においてのみ ったことが されているんだ。ムハンマドが ったのは、イスラ ムを守るためだけだった。この本はとても良い本だよ。彼は 人に、ムスリムとして地上を いた最も模 的な人物であったことが述べられている。彼が最 の 言者であることも俺はこの本から学んだ。

白人としての立 から言うが、ファラカ ンによる主 に怯えることを通り超え、イスラ ムがテロリストの宗教であるという 知を克服したのなら、イスラ ムはそれらとは全く のないものだと分かるはずだ。やつらはイスラ ムの名を借りただけの、全く なものだ。これに の余地はない。

俺がジ ザスのことをキリスト教徒に 明しても、彼らは俺と することは出来ない。いやではなく、ただ「ジ ザスは神なんかじゃない! 」と言ってるだけだが。しかし 、彼が 人 だということを理解するのはそんなに しいことなんかじゃないはずだ。もしも俺がキリスト教徒で、神が俺にこう ねたとしよう。「おい、なんでお前はジ ザスとそっくりじゃないんだ? 」俺はこう答えるはずだ。「俺がジ ザスとそっくりじゃないのは、あなたが彼の半分を神にしたからで、俺が なる人 だからでしょう。」もちろんこういうことは全く成立しないだろう。

神は俺 が苦 の人生を送ることを望んでなんかはいない。神は、可能な限り物事が容易なことを望まれている。だから神は、物事を出来るだけ にしてくれる。真 に すれば、神はそうしてくれるんだ。ひよっとすると、つまづき、よろめくようなちょっとした石が道の上に置かれることはあるかもしれないが、やがて道は かれるんだ。

AB: あなたによる最初のシャハ ダ (信仰宣言) と、二回目のシャハ ダについて かせてください。

E: 最初の は、ワ リス ディ ン ムハンマド (ネ ション オブ イスラ ムの 始者であるイライジ ャ ムハンマドの息子で、ネ ションの大半を正 派イスラ ムへと いた人物) のテ プを いた 直 だった。あのテ プによって、ジ ザスの神格性 に しての疑いが晴れたんだよ。彼はム スリムたちがジ ザスの人 性を明 にさせたことで、キリスト教徒に して大きな借りを作 ったと言ったんだ。なぜ神が半分神の人物を り、俺 と比べるんだ ってね。それは俺の のなかに仕 けられた爆 だったよ。だからシャハ ダしたんだ。でもその「ハイ」の状 は やがて薄らいでしまったんだ。

それは例えるなら「ジ ザスを受け入れよ」と主 するキリスト教徒が「私はどんなこと をしても救 されるのです。」と言うようなものだ。なぜなら俺はそんなメンタリティ の中で育ってきたからだ。「よし、俺は真理を受け入れるから罪を犯しまくっても救 されるんだ。」と平 で言うような感じだな。

しかしその当 はまだ自分自身をムスリムだとは主 していなかった。ただ自分が信じた い部分だけを抽出していただけだった。しかしどちらか 意しなければならぬ が来た んだ。俺は感情的にも精神的にも 足ることが出来なくなってきていた。俺の口座に は金があったし、一千万 の やたくさんの女たちを っていた。欲しいものは何もかも持 っていたんだ。でも「なぜ俺は幸せじゃないんだ？」って思うようになった。 の声が 俺に り始めたんだ。それは (魔の) きではなく、俺の善意の声だった。「お前が不 な のは、荒れ果てた生活を改善しようとしなからだ。」

俺は 情だったから、その声に耳を けようとはしなかったし、「俺ひとりで何とかして みせる」なんて思ってたんだ。

俺はようやくディヴァインとアブドッラ に す になった。「どんな 分だ? それは何だと思 う? 」とやつらは言った。それで 局、俺は二度目のシャハ ダをする になったんだ。その 以来、俺は最善を尽くすよう 心した。礼 をきちんと定刻通りに行い、 み ぎて自分 自身を めつけるのではなく、罪深い行いをひとつずつ止めていくことの出来る さを与 えてくれるよう、祈りだしたんだ。俺はまだこの部分に手こずってはいるがね。

一旦大きな壁を乗り越えれば、あとは希薄になってくる。それはかのをて、直接は口を言わないが、の中で口を叩くようなものなんだ。こう言うべきではないかもしれないが、よりなのは、大きなものをする事なんだ。のしい、精神的な事柄が自分自身につながる。自分自身がなのかという真に向き合うことが出来ないのなら、いずれは崩しちゃうんだよ。

人は「あなたはムスリムですか?」とする。それで俺は「ああ、俺はムスリムだけど、プロの罪人だよ。」と答える。俺はこんな状からけ出したいよ。早く引退したい。俺はおまえよりもれた人だなんて言わないよ。俺はただ真を示されたと信じていて、それが俺を救ってくれることを望んでいるだけなんだ。

アディサ バンジョコは、サンフランシスコ ベイエリア在住のフリーランス者です。

この事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/79>

著作 2006-2015 断を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断を禁じます。